

所外4

HIV/SIVキメラウイルスを用いた
個体レベルにおけるHIV病原性の解明
速水正憲（京都大・ウイルス・病原ウイ
ルス）、松林清明（京都大・霊長類・サ
ル類保健飼育管理施設）

HIV-1由来の*env* その他の遺伝子をも
ち、サルに感染するHIV/SIVキメラウイ
ルス（SHIV）のサル感染実験を通して
HIV病原性を個体レベルで解明する目的
で一連のSHIVを作成し、サル感染実験を
遂行中である。所外供給を受けたアカゲ
ザルはSIV/サル実験系で発症に必須であ
ることがわかっている*nef* 遺伝子を欠失し
たSHIV（SHIV-dn）を静脈内接種した。
SHIV-dn 接種によりサルは持続感染する
ものの発症せず、ウイルスに対する液性
および細胞性免疫が誘導されることが期
待される。現在、経過を観察中であるが、
体内ウイルス量は*nef* 遺伝子をもっている
SHIVより低く、末梢血リンパ球サブセッ
トの変化も見られていない。今後、抗体
応答、CTL検索等を行なう。HIV, SIVと
いったレンチウイルスは長期持続感染の
のちに発症するため、病原性の検討には
時間がかかることを御了解願います。